

熊本県遊技業協同組合様より ご寄付をいただきました

平成26年5月21日、熊本県遊技業協同組合様の地下水環境保全への想いと御芳志に対し、幸山理事長より感謝状を贈呈いたしました。

熊本県遊技業協同組合様は、これまでも日本赤十字社や犯罪被害者支援センター、近年では東日本大震災被災者など、社会貢献の一環として様々な団体へ支援をされております。

昨年に引き続き、「特に熊本地域の人々の暮らしをはじめ、農業や工業など産業活動の礎となっている地下水を守るために役立てていただきたい」とのことで、ご寄付の申し出をいただきました。



平成26年3月1日から 6月30日までに、 ご加入いただきました 会員の皆様をご紹介します

企業

企業名
敷島印刷株式会社
株式会社ランテック熊本支店
株式会社エヌユーエス九州

個人

個人名	
田代 絢子	廣瀧 宗美
濱田 菜穂子	宮野 岳明

(敬称略)

地下水節水しませんか？

財団では量水器・止水バルブ設置に対して補助を行っています。

量水器の設置により、地下水をくみ上げている量を正確に知ることができ、節水意識の向上につながります。



量水器

補助金額	
①口径が30mm以下	35,000円
②口径が30mmを超え40mm以下	40,000円
③口径が40mmを超え50mm以下	125,000円
④口径が50mmを超え75mm以下	150,000円
⑤口径が75mmを超えるもの	200,000円

止水バルブ

止水バルブを、こまめに開閉することで無駄な地下水の流出を防ぐことができます。

補助金額

一件あたり5万円を上限

手続き方法など、詳しくは財団事務局までお問合せください。

雨水タンク、雨水浸透ますの設置に対しても、助成が行われている自治体があります。詳しくはお住まいの市町村までお問合せください。

節水シールを貼って、地下水保全！



洗面所や流し台、水道などの水回りに節水ステッカーを貼って、地下水保全を呼びかけませんか？トイレでの大小レバーの使い分けや流し台でのこまめな蛇口の開閉が、節水につながります。希望される皆様には、節水ステッカーを配布します。

詳しくは、財団事務局までご連絡ください。



くまもと育水会

Kumamoto Clear Water Alliance

Vol.5 発行日：平成26年7月22日



© 2010 熊本県くまもんの国くまもと

世界水の日(3月22日)イベント開催

天然地下水を育むマルシェを開催しました

ホテル熊本テルサにて、「天然地下水を育むマルシェ」を開催しました。マルシェでは、熊本パールライス(株)様、(株)山内本店様、JA菊池様、(株)うきうき森田農場様のご協力により、地下水を育む農産物「水の恵み」やくまもとグリーン農業農産物、えこめ牛ソーセージの販売を行いました。



お買い求めいただいた方からは「生産されている方の顔が見えて、安心。水の恵みやグリーン農業などの取組みは素晴らしい。」というお声もいただきました。

同日、天然地下水を育む農産物を使用した試食会も開催し、水の恵み米のおにぎりや、えこめ牛ハンバーグ、そして筑前煮とミネストローネ、人参ジュースなどが試食できました。心を込めて作られた農産物とシェフの方々のおかげで、大好評でした。



くまもと地下水会議からの提言 「くまもとの地下水を守り抜くための対策 ～8つの提言～」受渡式

答申受渡式を開催し、「くまもと地下水会議」の議長である蒲島熊本県知事から「くまもとの地下水を守り抜くための対策～8つの提言～」が、幸山理事長(熊本市長)へ手渡されました。

今回の提言は、当財団の諮問機関である「くまもと地下水会議」が、「くまもとの地下水を守り抜くための対策」をテーマに、約2年間にわたり議論を重ねてきたもので、取りまとめた内容は、涵養(かんよう)域の保全や地下水の硝酸性窒素の計画的な削減など8項目が柱となっています。



国際 「水」フォーラム in熊本

「国際「水」フォーラムin熊本」が開催されました。フォーラムでは幸山熊本市長が世界に誇る熊本市の地下水保全の取組みについて紹介し、国連の方や熊本大学嶋田教授の講演も行われました。そして最後に熊本高等学校の森本優貴美さんによる「かけがえのない熊本の地下水を守るために～私たちにできること～」というタイトルで宣言がありました。

平成26年度 第1回 通常理事会

平成26年5月21日、ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイにて、「平成26年度第1回通常理事会」を行いました。理事15名、監事2名、合計17名で審議いたしました。

■議事

- 議案第1号 平成25年度事業報告及び決算(案)について
- 議案第2号 第1次中長期基本計画(案)について
- 議案第3号 平成26年度定時評議員会の招集(案)について
- 議案第4号 くまもと地下水会議委員の選任(案)について

■報告・その他

- 報告1 定時評議員会への理事選任議案の提出について
- 報告2 定時評議員会への理事長及び副理事長並びに常務理事選任議案の提出について
- 報告3 平成26年度事業に係る職務の執行状況(事業報告)について
- 報告4 地下水保全顕彰委員会での地下水保全企業・団体の認定に係る審査結果について



すべて原案のとおり承認されました。

平成26年度 定時評議員会

平成26年6月4日、熊本ホテルキャッスルにて、「平成26年度定時評議員会」を行いました。評議員10名、監事2名、合計12名で審議いたしました。

■議事

- 議案第1号 平成25年度決算(案)について
- 議案第2号 理事の選任(案)について
- 議案第3号 理事長及び副理事長並びに常務理事の選任(案)について

■報告・その他

- 報告1 平成25年度事業に係る職務の執行状況(事業報告)について
- 報告2 第1次中長期基本計画について
- 報告3 平成26年度事業計画について
- 報告4 平成26年度予算について
- 報告5 改選された役員について
- 報告6 地下水保全顕彰委員会での地下水保全企業・団体の認定に係る審査結果について



すべて原案のとおり承認されました。

〒860-0801
熊本県熊本市中央区安政町8-16
村瀬海運ビル4F
TEL.096-227-6678 FAX.096-247-6661

詳しくは「くまもと地下水財団」で検索

くまもと地下水財団

検索

<http://kumamotogwf.or.jp/>

公益財団法人
くまもと地下水財団

地下水保全顕彰制度とは

2013年3月22日、熊本地域における地下水保全の取組みが国連「生命の水」の「最良の水管理の取組み」カテゴリーにおいて最優秀賞を受賞しました。当財団では、これを機に、熊本地域の企業・団体の地下水保全の具体的活動や功績等について顕彰し、諸活動を称賛する制度を設けることとしました。この制度は地域で地下水保全の機運を高めるとともに、企業・団体にとって社会貢献をPRする手段として活用して頂くことで、活動の更なる促進及び評価を高めることを目的としています。

地下水保全顕彰制度のメリット

- 企業・団体の社会貢献活動のPR手段として活用できる
- 環境保全に取り組む企業・団体ブランドイメージの向上が図れる
- 将来的な環境保全に対する国際的評価につながる

ゴールド認定企業・団体インタビュー

地下水保全 顕彰制度

公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金

吉津克俊 常務理事

公益財団法人 肥後の水とみどりの愛護基金は、顕彰事業を起点に、森林の管理・運営や棚田での水田湛水事業を行い、またDVD『水はみんなの命』を製作されています。地下水保全啓発の先駆けとなって活動されている同基金の吉津克俊 常務理事に様々な取組みについてお話を伺いました。

地下水保全 顕彰制度

ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンター

林 眞嗣 熊本総務部統括部長

ソニーセミコンダクタ株式会社 熊本テクノロジーセンターは、湛水事業をはじめとし、地元産物の購入など地域に根ざした活動を実施されています。湛水や農産物の購入など、先駆けとして地下水保全活動を行われている同社の林眞嗣 熊本総務部統括部長に様々な取組みについてお話を伺いました。

地下水保全 顕彰制度

サントリー酒類株式会社 九州熊本工場

古川勝久 工場長

サントリー酒類株式会社九州熊本工場は「天然水の森 阿蘇」など水源かん養林の整備に力を入れるとともに、様々な啓発活動を実施されています。「使用する地下水の量はかん養活動によってまかなう」という考えのもと活動を行われている同社の古川勝久 工場長に様々な取組みについてお話を伺いました。

多くの啓発活動を実施されていますが、その内容はどのようなものですか

今まで学術研究者による地下水の調査研究などは進んでいますが、一般の住民向けの分かりやすいツールがなかったため、熊本の地下水の「見える化」を目的として、『水はみんなの命』を製作しました。特に意識した点は、各分野の専門家からなる製作委員会を設置し、科学性をもたせる内容にしたところです。

現在、この『水はみんなの命』を使って、学校向け、企業向け、住民向けに分けて啓発活動を行っています。学校へは、指導にあたる先生方用のガイドブックもセットにしてDVDを配布し、小学校低学年向けには、わかりやすいまもメンバーズDVDを別途作成し配布しました。

企業向けでは、大型取水企業へ直接伺い、賛同を得て、社員教育等に使ってもらっています。また、肥後銀行の行員研修でも使っており、植樹などの地下水保全活動の意味を知ることにつながり、行員がお客様とお話するにあたり、より幅が広がるのではないかと考えています。その他、出前講座の依頼も受け付け、当財団の職員が講師を務めています。

住民向けには、昨年は2つの公民館で製作委員の先生方を講師として市民講座を開催しました。今年度は、大津町、菊陽町で講座を開始しています。またその他に、肥後銀行の支店で1週間から2週間程度、節水パネルや節水器具の巡回展示による啓発活動を行っています。

工夫されている点などありますか

啓発事業のほかに「肥後の水とみどりの愛護基金」などの顕彰事業や阿蘇地域での森林の管理・運営事業、水田湛水事業などを進めています。どの事業もバランスよく行っていきたく考えています。当財団は少人数のため、多くの団体や企業、行政と協力しながら進めることにより、少人数で多くの効果がでるように工夫しています。そして広く定着するように、細かいニーズにも必ず応えるようにしています。

一各事業について教えてください。

愛護賞は昭和62年から行っています。先般、各自治体へ推薦などのお願いに回りました。この賞で意識が高まり、企業や団体など地域全体で地下水保全の取組みの促進につながればと思っています。水源かん養林の保全育成のため、平成18年から52haの「阿蘇大観の森」で11万本以上の広葉樹を植樹しています。さらに平成23年からは、3.5haを賃借し、耕作放棄地を25年ぶりに再生した「阿蘇水樹の棚田」で農業による水田湛水事業を行なっています。

今後実施していきたいことはなんですか

阿蘇大観の森を管理していますが、今後、森林公園化、環境学習の場としての検討をしていきたいと考えています。もう一つは来年、肥後銀行の本店ができますが、その1階で文化ギャラリーの運営を行います。ギャラリーでの様々な展示に加え、ロビーにデジタルディスプレイを用意し、『水はみんなの命』を活用して地下水保全の情報発信拠点としての啓発活動も行いたいと考えています。

地元農産物の販売など地産地消を支援されていますが、そのきっかけはどのようなものですか

JA大津に協力してもらい、白川中流域でとれたお米を社内で販売しています。4年間で1.6トンの販売実績となり、約34,000トンのお米に貢献しています。最近では、くまもとグリーン農業が開始され、米だけでなく地元の農産物の販売にも広がっていききました。

元々のきっかけは地下水かん養でしたが、地元の農業を支援することが自然環境保全へのつながりへと発展していき、とても盛況です。社員にとっても、環境意識が高まり、理解も深まる良いきっかけになっていると思っています。

湛水事業を始められたきっかけはなんですか

工場進出前に環境ネットワークくまもとから進出時の環境に対する質問状が届き、これに対し、真摯に検討し、当初は水使用量を削減する形で貢献していくことを考えておりましたが、湛水についての提案があり、受諾したのがきっかけです。今振り返ると、大変いい提案をいただいたと思っています。湛水事業に関してはとてもいい反響があり、評価もいただいております。民間企業がトライアルとして開始した小さな取組みだったものが、大きく広がっていったというステップで考えると、いいプロセス展開になったと思います。

地下水保全活動を継続していく上での課題はありますか

環境活動を継続していくとマンネリ化してくることがあります。俵山で2.4haの植林をしていますが、イベントが終わったら一段落ついてしまい、次の目標を見つけ出すのが苦勞する点です。現在は地下水も量から質に変わってきていますが、会社がどう関わられるのか考えていかなければならないと思います。一企業として何ができるかをみつけていくのが一つの課題です。

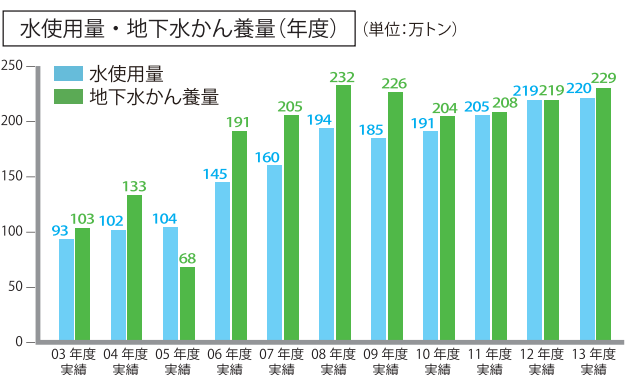
また、継続する上で、地下水かん養がどの程度まで量を確保して続けられるのかは以前から懸念しています。離農者が増えているとの問題もあるので、消費者が地産地消でどれだけ地元農産物を買って消費していくかというのも大切なことだと思っています。

保全活動に取り組む上で、参考になるアイデア等があれば教えてください

社員全員が環境活動に興味をもっていただければいいのですが、やはり温度差があります。様々な仕掛けで、1人1人に環境意識を高めてもらうように取り組んでいます。一例として、クールビズの期間には「富士山へ登ろう」という企画を実施しています。これはエレベータを使わずに階段を使用した回数を記録し、どの山まで登れたかという企画です。2ヶ月でエレベータに登った人もいます。こういったことで、環境意識をもってもらいます。

工場として製造プロセスや装置のところで節水があります。節水への取り組み方としては、部会を立ち上げ水使用量の削減・施策を検討し、節水の推進体制を構築しています。

また環境委員会の委員長は事業所代表者となっており、トップ自らが出てきて推進状況を確認し、環境も事業のひとつとして責任を持って行っています。



2005年は、夏場の日照りの影響で、かん養日数が予定日数の半分に、かん養量も約半分に減りました。

水源かん養活動の重要性など多くの啓発活動を実施されていますが、その内容はどのようなものですか

我々は、阿蘇の外輪山の中の国有林272haを「天然水の森 阿蘇」として、水源かん養活動をしているということを一番大切に考えています。地下水がないとこの工場がなりたちません。他の工場も含めて弊社は、ビールを地下水で作るということをセールスポイントにしているため、水源となっている森についてはしっかりとかん養活動をしていくという考えのもと、活動を行っています。全国では7,600haの森林を保全活動をしており、2020年にはさらに12,000haに拡大することを新たな目標として掲げています。

地下水を増やすための活動として、益城町の津森で「冬水たんぼ」と名付けて、冬場に5ヶ月間水をためて地下に浸み込ませる活動をしています。5haで、5ヶ月間で約50万トンの地下水が増えることがわかっています。さらに今年は冬水たんぼを実施した水田で、社員による田植えの手植えをしました。無農薬栽培に挑戦し、秋には稲刈りをし、できたお米は社員食堂で食べようと思っています。無農薬でもそんなに手間なく作れるということが農家の方にも広がり、きれいな地下水を守るための活動につながっていくと考えています。このような活動は、工場見学にお越し頂いた方々にサントリーが取り組む環境活動として紹介しています。

多くの地下水保全活動を実施していかうとしたきっかけや工夫していることはなんですか

工夫している点は、実際に森林整備などを実施してもらおうのは専門の業者ということになりますが、社員にも年1回打ち合わせを体験させて、森林かん養活動の大切さを感じてもらう様にしています。また、一般の方々にも環境活動の大切さを理解してもらうために、「森と水の学校」を開催しています。これは「天然水の森 阿蘇」に小学生やそのご家族をお連れして、森の中の多様な生き物や植物の大切さや森林整備による地下水の保全などを勉強してもらっています。また、工場の案内係が近隣の小学校に伺い、水や森の大切さの教育(水育出張授業)を行っています。

活動のきっかけは、熊本の天然水を利用していただくことです。地下水がないと製品を生産できないので、永続的に熊本の地下水の量と質が保たれることを望んでいます。こういったことは、サントリーだけで出来ることでもありませんので、行政や農家の方々の協力も期待しております。

節水に取り組む上で、参考になるようなアイデアがあれば教えてください

工場では、使用した水は、温度帯別に3種類のタンクに収納し、それをまた冷却、加熱他の用途に再利用するシステムを構築しています。また、屋根に降った雨を回収し、タンクにためて濾過して、設備の冷却や樹木の散水に使用しています。

水の日記念シンポジウム

申し込みましたか?

この機会に、企業・団体が行っている地下水保全の取組みについて理解を深めてみませんか。なお、シンポジウム終了後、地下水保全の事例や情報を共有する交流会を開催致します。交流会では地下水を育む農産物を使ったお料理をご提供します。(17時45分から19時15分 会費4,000円)。

～水の日記念シンポジウム～

- 日時 平成26年8月6日(水曜日)
- 時間 15時30分から17時30分
- 場所 熊本ホテルキャッスル 2階キャッスルホール
- 定員 200名(どなたでも参加できます。)
- 参加費 無料

※公共交通機関をご利用ください。

※参加希望の方は、財団事務局へご連絡ください。

あなたも今日からできる地下水保全!

ちょっとしたところが大切です。

1分間水を流しっぱなしで約6ℓの水を使います。
勢いよく流すと1分間に約12ℓの水が流れます。

節水

- 歯をみがくときはコップを使おう
- 顔を洗う時は洗面器を使おう
- 風呂の残り湯を洗濯や掃除に使いましょ
- 食器洗いは、ため洗いしよう
- シャワーはこまめに開け閉めしよう

農産物は豊かできれいな地下水を育みます。

育水

- かん養域のお米など、地下水かん養につながる農産物を食べましょう!
※お米を作るために田んぼに水を張ることで、地下水がかん養されます。また、お味噌など、かん養域でとれたお米を使った加工品もあります。
- お米で育った「えこめ牛」を食べましょう!
※えこめ牛を食べることは、間接的にお米をたべることになり、地下水かん養につながります。
- グリーン農業農産物を食べましょう。
「くまもとグリーン農業」は、化学合成された肥料や農薬をできるだけ使わない土づくりを基本とした、環境に配慮した農業です。

平成26年度から平成35年度まで第1次中長期基本計画を策定しました。

くまもとの地下水を守り抜くための対策 ～8つの提言～

- 地下水量を守り抜く**
地下水かん養量を増大させるための具体的な対策について
- 地下水質を守り抜く**
地下水の硝酸性窒素等汚染を解消する具体的な対策について
- 地下水を活かす**
くまもとの宝「地下水」を重要な資源として活用する方策について
- 地下水を協働で守る**
地下水保全に向けた総合的な取組み
- 提言 1** 熊本地域の地下水を育むかん養域を守る
- 提言 2** 人為的な地下水かん養の取組みを広げる
- 提言 3** 企業や住民との連携により地下水かん養に取り組む
- 提言 4** 硝酸性窒素の発生源ごとに具体的な対策を計画的に推進する
- 提言 5** 環境にやさしい「くまもとグリーン農業」を推進する
- 提言 6** くまもとの地下水ブランドづくりを進める
- 提言 7** 地下水保全対策の効果の「見える化」に取り組む
- 提言 8** 協働による地下水保全対策を推進する

財団の4つの基本方針

- 基本方針 1** 協働による地下水保全を推進し、地下水保全対策の効果の「見える化」に取り組む
- 基本方針 2** 世界に誇れる美味しい地下水を守るために、地下水の硝酸性窒素濃度低減等の対策を実施する
- 基本方針 3** 世界に誇れる豊かな地下水を守るために、地下水かん養量を増大させる
- 基本方針 4** くまもとの宝「地下水」を重要な資源として活用し、熊本地域の暮らしを一層豊かなものにするため、くまもとの地下水ブランドづくりを進める

事業展開・内容

全体	中期目標(平成30年度)	長期目標(平成35年度)
<p>広域的に協働して地下水保全を円滑に推進するために、「くまもと地下水財団」の体制を強化していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■賛助会員数:600会員 ■人材の育成と資質の向上 ■調査・研究チームの設立 	<ul style="list-style-type: none"> ■賛助会員数:800会員 ■キッズ会員数:400会員 ■学生会員数:400会員 ■地下水に関する高い専門性を有する職員体制の確立 ■地下水保全に対する環境・農業との連携体制の確立 ■水関連収益事業実施体制確立 ■地下水に関する最新データの収集継続により、データベース構築が完了。また、シミュレーション精度も向上し、データベース、シミュレーションモデルともに有効活用されている。 ■特に対策が必要と考えられる市町村の硝酸性窒素削減計画が策定され、削減に向けた対策が執られている。 ■地下水保全に寄与する農産物の生産普及、消費拡大によって硝酸性窒素濃度の低減がみられる。 ■かん養事業の拡大等によりかん養量が増加している。 ■財団実施の各種助成制度が11市町村で継続実施され、雨水利用等が拡大されている。
<p>公1:地下水環境調査研究事業 地下水保全対策の効率・効果的な推進を図るために、地下水の水位や水質、流動や流出など熊本地域の地下水の現状、メカニズムを把握することで、地下水保全対策の効果の「見える化」を図るとともに、熊本地域における地下水管理手法を確立していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■地下水に関する最新データベースが構築され、精度向上した水循環モデルが地下水保全活動に活用されている。 	
<p>公2:地下水質保全対策事業 顕在化しつつある地下水の水質悪化に対応するため、発生源対策の推進を目指し、県、市町村、企業、関係団体等と連携しながら、世界に誇れるおいしい熊本の地下水を未来へ守り抜くための対策を実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■最新の水質調査結果や様々な地下水データの継続収集によりシミュレーション精度が向上し、シミュレーションモデルが有効活用されている。 	
<p>公3:地下水涵養推進事業 熊本地域の絶対的な地下水量を増やすために、熊本地域の地質的特長を活かしたかん養事業など、熊本地域の地下水量保全を目的とした事業を実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■水田オーナー制度:10企業団体 ■水の恵み仲介量:15t ■冬期湛水事業:21ha ■雨水貯留タンク等の設置補助制度を11市町村で実施 	
<p>公4:地下水採取・使用適正化推進事業 熊本地域の重要な資源・地下水を後世に継承するとともに、活用していくために、地下水保全の意識向上のための啓発やくまもとの地下水ブランドづくりに向けて地域が一体となって取り組む事業を実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■賛助会員数:600会員 ■キッズ会員数:300会員 ■学生会員数:300会員 	

今年度は5団体・企業の方にご参加いただき、6月8日、15日に総勢183人で田植えを行いました(今後参加を考慮しておられる企業様も、一緒に体験していただきました)。田植え後は、DVDや模型を使って熊本の地下水について勉強しました。

10月初旬に稲刈りの予定です。ご興味のある方は、財団がオーナーになっている田んぼで稲刈り体験をしてみませんか?



水田オーナー制度とは

水田に張ってある水が浸透し、地下水になり、私たちの元へ届きます。オーナーの皆さまに参加していただくことで、水田の耕作放棄等を防ぎ、地下水保全につながります。

お米を作って、地下水を育む、水田オーナー制度は企業の方はもちろん、個人、ご家族などでご参加できるメニューになっております。

今年もやります!ウォーターオフセット事業!

財団では、団体・企業の方々向けに、新米の購入仲介を行っております。今年度も9月半ばから10月まで注文を受け付ける予定です。新米を食べて、約15年~20年後の自分へお水を届けませんか?また、熊本の手土産として地下水かん養米を利用してみたいはいかがですか?

注文いただいた企業・団体様には“かん養量証明書”を発行しております。

皆さまのご参加、お待ちしております。



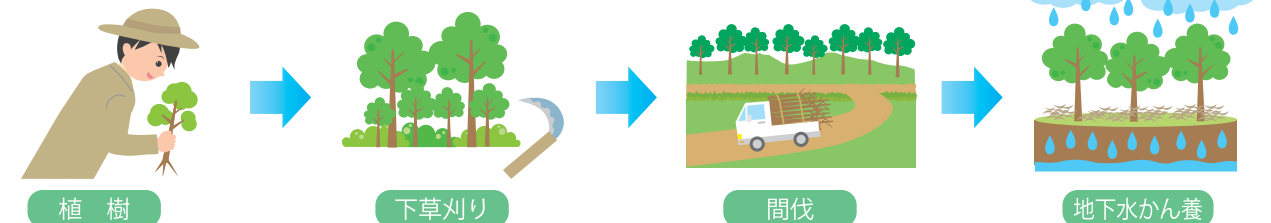
ウォーターオフセット事業とは

地下水を使っている私たちが地下水を育む農産物を購入、消費することで農業を守り、地下水を守る取組みを“ウォーターオフセット事業”と呼んでいます。お米を作るときに水田に張られた水は、地下に浸透して地下水になります(=かん養)。白川中流域では、浸透能力が高く、お米5Kgを作ると、約100トンの地下水を育むと言われており、これは熊本市民1人が約1.2年間使う水の量と同じです。

かん養林の管理について

森林の中を歩くと、土がふかふかしていることに気づくことがありますが、この「ふかふか」は、枯れ葉などが虫や微生物などに分解されて重なり合うことで作られています。

このふかふかの土には雨が染みこみやすく、水を保持する力があるので、地下水形成にも役立っています。しかし、この土を作るためには、森林(特に人工林)の手入れが必要です。



例えば植樹した木は、成長を促すために周りの草を刈る下草刈りが必要で、ある程度大きくなると間伐を行い、木と木を生育に良い間隔にし、雨や光が土へ届くようになります。間伐をする際、大きな木は機械によって搬出します。当財団所有の「育水の森」では、昨年度から作業道の作設を行っています。

今後、「育水の森」の整備計画を立て、多くの皆さまにかん養林と地下水の関係がわかるような参加型メニューを提供する予定です。